

令和3年3月3日（水）朝日新聞

育て想像力 ギャラリー開設

御坊市出身のイラストレーターで絵本作家の中川貴雄さん(41)が2日、同市藪の本町商店街の空き店舗に「トリノスギャラリー」を開いた。昨夏、東京からUターン。「人と人がつながり、子どもたちが想像力を育て巣立っていく場所にしたい」と意気込む。

絵本作家・中川さん

中川さんは御坊商工高（現・紀央館高）を卒業後、大阪のイラストの専門学校に3年通い、フリーで活動を始めた。2010年、結婚を機に上京。広告や雑貨、服飾デザインと幅広く手がけてきた。16年には絵本の第1作「わすれんぼうのサンタクロース」を出版。現在までに10冊ほどを出している。

小学3年生から0歳まで2男1女の父。「子どもたちがのびのび過ごせるように」と昨年7月に御坊へ一家で転居した。

ギャラリーは、数年前から帰省した折にワークショップや公開制作などで使わせてもらっていた場所だった。Uターンを機に内壁を白く塗り替えるなどして改装。約10年間毎日1枚ずつ描き続けている「絵しりとり」の原画など、自身の作品約500枚を壁一面に飾った。

御坊
空き店舗改装
作品500点

今後は子ども向けのものづくり教室やワークショップを開いていくという。中川さんは「うちの子を見ていても、世の中が便利になった分、自分で考える力が弱くなっている気がする。想像力を育て

るきっかけをつくりたい」と話す。

ギャラリーでは原画を1枚5千円から販売しているほか、ロゴ入りの開店記念マグカップなども売っている。当面は不定休で、午後1時から5時まで。問い合わせはメール（gobo@ekakino-nakagawa.com）かインスタグラム（ekakino_nakagawa）。

（大野宏）



「トリノスギャラリー」内部と中川貴雄さん。壁に飾られているのは1日1枚描き続けている「絵しりとり」の原画＝御坊市藪